



Amir Tsarfati

[中東問題について—ダマスカスへの宣告]

(2013年9月8日カリフォルニア州 Shadow Mountain Community Church にて)

私はいつも、イスラエルの敵に

「ミサイルを太陽、月、星に向けろ！そうすれば我々も消え失せる。それらが無くなれば、我々も消えるだろうから。しかし、太陽、月、星がある限り、何があっても、我々は神の目には国家である。」とっています。

(会場拍手)

今夜のメッセージのタイトルは、「ダマスカスへの宣告」です。最初に理解しておくべきは、世界で起きていることは全て何千年も前に聖書の中で、はっきりと完璧に預言され、書き記されている、ということです。最近、恐らく一年ほど前、クリスチャンではない、ユダヤ人の友達が、

「今が終末期だって知ってるか？もう終わるんだ。」と言うので、

「どういうことか？」と聞くと、

「終末期に世界がどうなるか、知ってる」と言うのです。そして、私が

「ホント!？」と聞くと、

「俺は時間も日にちも季節もはっきり言える。それは、2012年12月21日だ」と言うのです。

「どうして知ってるんだ？」と聞くと、

「www.december21st2012.com」

だと言うのです(笑)。さっそく私はチェックしてみましたが…今はもう、2013年9月です。明らかに、間違いです。それでも、これは誰もが思う疑問ですよね。終わりはいつなのか？いつ、終末を見るのか？世界中が注目しています。聖書には、イザヤ書46章で、主ご自身に導かれて、預言者イザヤがこう語っています。

8 このことを思い出し、しっかりせよ。そむく者らよ。心に思い返せ。

9 遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしの様な神はいない。

10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる』と言う。

(イザヤ書46:8~10)

神の御言葉を理解することはとても大切です。神が全てをコントロールしている、と言います。

9 …わたしが神である。ほかにはいない。

(イザヤ46:9)

わたしはその計画を隠したりしない。あなたがたは答えを探し回る必要はない。占い師も水晶もいらぬ。わたしの御言葉を読むのだ。

10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、

(イザヤ46:10a)

イザヤやエレミヤ、エゼキエルらが記した事で、まだ成就していない事がある。そこで、これからお話するのは、イザヤ書 17 章 1 節です。これは、まだ成就していない事柄の一つです。しかし、神は言われます。見てください。驚くに値しません。

10 『わたしのはかりごととは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる』

(イザヤ 46:10b)

これがわたしだ。全てを支配している。

世界中の人々、特にクリスチャンたちの多くは、眠った状態でいます。ホセア書 4:6 にはこうあります。

6 わたしの民は知識がないので滅ぼされる。

(ホセア書 4:6a)

これが「神の民」というのは、とても残念なことです。滅ぼされるのは、世の人ではありません。また、霊的に乏しいために滅ぼされるのでも、気が緩んでいるためでも、良心が欠乏しているからでもありません。ただ、知識がないために、神の民は滅ぼされるのです。本当に悲しい事です。

ある日私は、妻と食事に出かけ、5 人の若者たちがテーブルを囲んでいるのを見ました。彼らは——互いに話もせず、スマホをいじっていました。画面を見つめ、フェイスブックで、恐らく、1 万 5 千人もの人と会話をしているのでしょう。しかし、彼らは、共にそこにはいませんでした。そこで私は気づいたのです。

「この年代の人たちに伝えるには、あの画面に行かなければ！」

こうして、私はアプリを作りました。イスラエルで起こっている情報を毎日伝える無料アプリ。「Behold Israel」です。簡単に入手できます。

この世は、メディアに支配されていると思います。私は「ミデヤン人」と呼んでいます。彼らは歪んだ情報を流し、我々を潰そうとしている。だから私たちは、中東で、本当は何が起きているのか、正しく理解するべきです。今夜、私が皆さんにお話するのは、中東における 8 つの重要な事柄、今現在起こっている事、および過去 2、3 週間のうち起こった事、それらをまとめてみました。当然、シリアについてもお話します。今、シリアで何が起きているのか。

まず、神は、建物や物、街や場所に敵対することはない、ということを理解しておいてください。神が宣告するのは、通常、ある特定の人々またはその指導者たち。そして、多くの場合、預言者たちが周りの町々に対して語った神の宣告は、ほとんどの場合、そこに住む人々の、神の民の態度に対してでした。そして、私たち誰もが知っているように、シリアは常にイスラエル国家に敵対しています。それは紛れもない事実です。これからお伝えしますが、1948 年以来、我々イスラエルの敵について、——イザヤ書 17:1

1 ダマスコに対する宣告。見よ。ダマスコは取り去られて町でなくなり、廃墟となる。

(イザヤ書 17:1)

つまり、この町は何らかの形で潰される、主によって、または他の誰かの手によって、どういう形であれ、ダマスカスは存在しなくなる。言い換えれば、そこは崩壊し、今立っているその町は粉々になる、ということです。ご存知の通り、ダマスカスという町は、2500 年以上あの場所に存在しているのです。聖書では、旧約新約両方出て来ますが、未だかつて完全に崩壊したことはなく、廃墟になったこともありません。まさにイザヤ書 46:10 に書かれている通り、

10 まだなされていない事

(イザヤ 46:10)

それが起ころうとしています。



[写真 1]

私たちのこの世代は、イエス・キリスト以来、最も多くの預言が成就するのを見えています。その一つが、先ほどお伝えした通り、1948 年のイスラエル国家の再建です。シリアを含む 5 つのアラブ国家が攻撃し、当初から彼らは理由もなしに、イスラエル国家の存在自体を否定していました。今でこそイスラエルは、ゴラン高原があり、西岸地区があり、ガザがありますが、1948 年には、ゴラン高原も西岸地区もガザ地区もなかったのです。これらの地域は、我々のものではありませんでした。それにもかかわらず、周辺国家から攻撃を受け、シリアもその一つでした。



[写真 2]

それだけでなく、1964 年、ほとんどの人は知りませんが、ヨルダン川の資源を巡って、イスラエル対シリアの中東戦争が起きる寸前でした。イスラエル北部に住む人々は皆、男たちが戦争に行ったため、子どもたちが女性を助け、このような溝を掘って、攻撃に備えて身を隠したのです。

これが 1964 年です。実際に、シリアからイスラエルに向けて 29 回にわたる攻撃があり、我々は 2 回だけ報復しました。しかし、国連安全保障理事会は、攻撃について両方を非難したのです。上等です！だから私たちは UN（国連）を United

Nothing（空っぽ連合）とか Unnecessary（不必要）と呼んでいます。

それだけでなく、1967 年、私たちは、シリア・ヨルダン・エジプトが、イスラエルへのゲリラ攻撃を計画している、という情報を得て、それらを防ぐため、20 分の間にエジプト・シリアの戦闘機を地上で破壊しました。基本的に我々は、彼らの戦闘機を稼働不可能にし、彼らが動けなくなったので、その後の 6 日間で 4 つの地域を占領しました。これは人類史上に残る戦闘の記録です。しかしこの事で、我々は高慢になり、自らの力を誇ったのです。



[写真 3]

その後起きたのが、ヘブル暦でとても重要な時期、ヨム・キプール（贖罪日）1973 年 10 月、午後の時間、ユダヤ教の断食の真っ最中、我々が一番弱くなっている時です。皆さん、断食をしたことはありますか？前日午後 6 時ごろから断食を始め、翌日の正午 12 時というのはピークです！とても喉が渇き、空腹で、全く力が入りません。攻撃はその時に、とても面白い形で起きたのです。1973 年、イスラエルは窮地に陥っていました。我々は、ただの攻撃でなく、それはとても激しい攻撃を受けていたのです。シリアは、ゴラン高原に 1,500 台の戦車を送りました。それに対して、我々は 140 台。相手はソ連製の T-72 が 1,500 台。新品です。

ビニールの覆いがかかっていたので、分かりました(笑)。言っておきます。我々は完全に崩壊していてもおかしくなかったのです。当時我々の首相（ゴルダ・メリア）は、ニクソン米大統領ととても親しい間柄でした。夜中の 3 時、首相は大統領を電話で起こし、言いました。



[写真 4]

「大統領？もし、これから 24~48 時間以内に、アメリカがイスラエルを助けなければ、私たちは生き残れません！」

ニクソン大統領は言いました。

「ゴルダ、私が子供の頃、母が毎日寝る前に聖書の物語を話してくれました。毎晩、私は母の聖書の話聞きながら眠りに就いたものです。ある日、突然に聖書の物語の途中で、母は話を止め、言い出しました。『リチャード、これから言う事を母さんに約束してちょうだい。今後、あなたがユダヤ人を助けられ

る立場に立ったなら、絶対にそうしなさい。』そう言って、また聖書のお話を続けました。」そして、ニクソン大統領は電話口で、

「今、自分が何故アメリカ大統領になったのかが、初めて分かった気がします。」（会場拍手）

彼は電話を切り、ペンタゴン（国防総省）に連絡し、48 時間以内に第二次世界大戦時以来、初めて、最大の空軍機を出動させたのです。それが全てを変え、イスラエルは助かったのです。アラブは負けたにも関わらず、彼らは勝利を誇りました。負けてわずかな土地も得られなかったのに、どうして毎年勝利のお祝いをするのか、神のみぞ知る。でもこれだけは言えます。あの 1973 年以來、34 年間、静寂が続きました。シリア・イスラエル国境で、銃弾一発も放たれることはなかったのです。



[写真 5]

2007 年までは。我々は最高品質の人工衛星を飛ばし、預言者アモスにちなんで、「アモス」といいます——それを通して、大変な映像を見ました。

これがその映像、シリア砂漠の真ん中で我々が見たもの、我々は農業施設かと思いましたが、全ての出入り口から、トラックがひっきりなしに出入りして、どういうわけか、それは北朝鮮の船と繋がっていたのです。我々はこの砂漠の中の施設を見たとき、大変危機感を覚え、何かが起きていることを悟りました。そこで我々は、ヨーロッパのホテルにある、シリアの核兵器機関のトップを訪ねました。我々はただ、中に入り、彼らのノートパソコンを数時間借りて(笑)、我々がすべき事を全てやり、お礼状とチョコレートぐらいは添えたでしょうか(笑)。

そして、この衛星写真を現像した時、それが北朝鮮製の、シリアによって建てられた原子炉だと分かったのです。我々の記録では、砂漠の真ん中にありました。すぐにホワイトハウス（書記注：当時はジョージ・W・ブッシュ大統領）に行き、「あなたがたは、アフガニスタンやイラクに忙しいので、私たちが必要な証拠を揃えてあげましょう。」

と言って、砂漠の真ん中に我々のチームを送り、シリア砂漠を二日ばかりで砂を採取して戻り、研究所へ送って調べたところ、疑う余地なく 100%、そこにあった核施設による放射能反応が出ました。我々はすぐにホワイトハウスに提出しましたが、こちらの大統領は

「今、こちらは他の事で忙しいので、（口には出しませんが）好きなようにやりなさい。」という反応でした。そんなわけで、2007 年 9 月 6 日、よく見てください。先ほどの建物です。ありません(笑)。（会場拍手）



[写真 6]

駐車場でも作ってあげようかと思って(笑)。面白いことに、彼らはその施設があったことを認めないし、我々もそれを攻撃したことを認めていないので、何もなかったことになっています(笑)。これが中東で起きている事です。

「あなたがたを攻撃する。」「2時間でこれだけのミサイルを使用する」「そ

れに備えろ」「それで良いか?」「変更した方が良いか?」

中東では、そんなやり取りはありません！攻撃しようと思えば、問答無用で攻撃します。

これが 2007 年。私たちは、彼らもこれで分かったと思っていました。



[写真7]

そして 2011 年。大変な事に、ロシアは 18 台の移動式ミサイル発射台を売却しました。

射程距離は 300 km、地上から海上へ、200 kgの弾頭を搭載していて、周辺に停留しているアメリカ海軍の軍艦を、どれでも容易に攻撃可能です。我々は将来的に見て、これを破壊すべきだと考えました。

当然、皆さんはご存知ないでしょうが、2011 年 3 月 15 日以来、シリアでは内戦が起きています。簡単に背景をご説明しますと、始まりは、数人の子もたちが政権をからかったことが発端で、政権は葬式の最中に銃を発砲する

に至り、大きなデモに発展して広がり、こんにちに至ります。12 万人以上の人がこの 2 年半ほどの間（2013 年 9 月現在）に亡くなりました。シリアの地図を見てください。



[写真8]

この赤い部分がアサド政権と反体制勢力が戦っている地域で、戦争は日常的に続いており、至る地域で何百もの死傷者を見ない日はありません。

ここで、知恵のある人は、今が「その時」だと気づくでしょう。彼らは互いを殺し合うことに終始しているので、一般的には…。良いですか？私は妊娠したことはありませんが(笑)、この中の、たくさんの女性が妊娠の経験があると思いますので、それがどんなものだか、分かりますね？「産みの苦しみ」について。「産みの苦しみ」はこんな風に、まず始まり、強くなり、強くなり、頻度が増し、——良いですか？私には経験はありませんが、掴まれたこと

はあります。そして、締め付ける力が強くなり、頻度が増し、そこから私は想像したのですが、皆さんがこれをご覧になって、——1967年、1973年、2007年、そして、見てください。2013年1月以来、起きていることを。



[写真9]

1月30日、我々は、対空ミサイルを運んでいる護送車を発見しました。アサド政権であろうと、反体制派であろうと、我々に向けてミサイルを設置することは絶対に許されない。そこで、我々は、向こう側で何が起きているか調べ、イスラエルは航空機を数機送って、ダマスカスからレバノンに向けてヒズボラに密輸されるために移動していた、この対空ミサイルを護送車ごと破壊しました。

そして 2013 年 5 月 3 日、イランの貨物機がダマスカスに着陸し、110 基の地上ミサイルを積み込んでいました。

今、何とかしなければ、とんでもない事が起きるのは明白で、我々は、その航空機および全施設を倉庫ごと破壊しました。

数日後、その前に送られていた物が届き、更にまだ存在することが分かりました。何より、その地域というのは、化学兵器を製造している場所で、2013 年 5 月 5 日、われわれは GERS の軍研究所施設を破壊しました。



[写真10]



[写真 11]

ということで、良いですか？これで 7 回の攻撃が発生しています。1973 年以来、何も起こっていなかったのが、2007 年、そして、2013 年始めからどれだけ起こったか。見てください。5 月、7 月、今 8 月を過ぎてさらに頻度が増しています。良いですか？これらは産みの苦しみで、何かが起きようとしています。

ダマスカスが、世界の注目の的ですが、ここで、シリアは、中東で最大の化学兵器生産国であることを覚えておいてください。



[写真 12]



[写真 13]

フセインが所有していたものを、全てシリアに持ち込んだだけでなく、彼らは製造する施設を持っています。我々が言うのは、サリン、VX ガス、それからマスタードガス、これはにおいがマスタードに似ていることからこう呼ばれます。これは、非常に致命的な殺傷能力がある兵器ガスで、ほんのわずかな量で、ここにいる全員を殺傷することが出来るほどです。100t のサリンを想像してみてください。大量です。それを彼らは長年にわたって製造し、備蓄していったのです。シリアがそれを持っているということは、誰もが知っており、それを使用したとしても驚きはしません。

今は知っていますが、数か月前まで私が理解出来なかったのは、どうしてあなたがたの大統領（書記注：2013 年当時オバマ大統領）は、化学兵器が使われたと、今、言うのか？

皆さんはこれを理解するべきです。恐らく、正解でしょう。

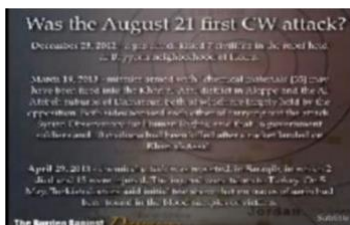
皆さんはこれを理解するべきです。恐らく、正解でしょう。

2013 年 8 月 21 日、ダマスカスの北側にサリンを積んだミサイル 15 基が発射され、1,400 人以上が死亡しました。

これを理解してください。明白です。今年の 1 月から、最低でも 4 回は化学兵器が使用されたことを、イスラエルは通報していました。



[写真 14]



[写真 15]

今、話しているのは、ホムス市をはじめ、様々な地域、今回はダマスカスの厳然たる事実です。2012 年 12 月 23 日、ホムス市で 7 人の市民がガス攻撃によって殺害され、2013 年 3 月 19 日、アレッポ市で化学兵器ミサイルが発射されました。4 月 29 日、別の化学兵器使用が報告され、これが初めてではないのです。考えてみてください。レッドラインも引かれていたのです。なぜ突然に、「それを越えた」と決めるのですか？それが問題です。我々が理解するべきは、これらの事にた

くさんの国が関わっている、ということです。あなたがたは恐らく思っているでしょう。「ロシアはシリアの件になると、どうしてあんなに頑固なのか？」と。

「どうしてロシアの大統領は、シリアでは何もなかった、と主張し続けるのか？」

大統領に責任はない。証拠がない。と。

死体を数えてください。そこら中に横たわっています。

我々が知るべきなのは、ロシアは、中東で起こっているいかなる対立にも——宗教的にも、政治的にも——全く関心がないのです。ロシアが真に注目しているのは、ただ一つ——天然ガスと石油です。事実、2012年6月、ロシアの大統領は巨大な航空機でテルアビブに乗り入れました。約200人を伴っており、——その名簿を見て、我々は大変驚きました。200人の人々は、政治関係者でもなく、治安機関の関係者でもない、この人たちは皆、石油とガス業界の関係者でした。到着後、彼はネタニヤフ首相に会い、シリアについて10分ほど話し、イランについては20分、そして、ガスと石油については4時間の会談が持たれました。わたしの情報源から、我々は悟りました。——私は2日後に知ったのですが、この会談で提示されたのは、

「発見されたばかりの石油とガスの分担を要求する。そうすれば、我々はイランへの支援を止める。」

というものでした。後になって、その時の会話がメディアにリークされ、8月24日オンラインに書かれた記事は、



[写真 17]

「ロシアは、イスラエルのガスと引き換えに、イランを差し出したのか？」

面白いですね。これは8月の第一週に起きたことです。サウジ王子、サウジアラビアの知識者のトップが、ロシアのモスクワ郊外の豪邸へ、プーチン大統領を訪問しました。この事は後になってイギリスのメディア「ザ・テレグラフ」に漏れ、それによると、

「彼はプーチン大統領に『我々は、ロシアの最大の関心事が、イスラエルからキプロスにかけての石油とガスにある事を知っています。また、ロシアのガスパイプラインが、ヨーロッパにとって重要な事も分かっています。我々はその事について対立するつもりはなく、共有できればと考えています』と述べた。」
分かりますか？サウジは、ロシアの目的をはっきりと理解したうえで、ロシアの関心が他の何ものでもなく、石油とガスだけだということを知った上で、提案しに行ったのです。しかしとても面白い事に、その会談が、——皆さんにと

っては恐らく初耳だと思いますが——サウジは、ロシアに石油の取引として、何十億ドルの現金を持ちかけたのです。

「もし、彼らがアサド大統領支援を止めるなら。」

簡単にまとめると、もし、アサド政権から手を引くと、ロシアはエジプトとキプロス間のガスと石油への接点を失う事になるので、ロシアはそれには興味を示しませんでした。プーチン大統領はサウジ王子に、こう話しています。

「彼らはとんでもない連中で、私が見た映像では、死体の肝臓を食べていた。私は、自分の中東での権益を危険にさらし兼ねないあんな連中にシリアを任せようとは思わない。」

その後シリアの大統領を激昂させることが起きました。

サウジ王子は、こう言いました。



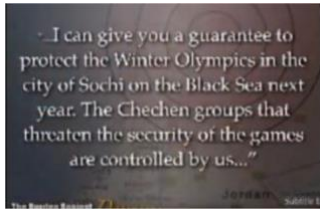
[写真 16]



[写真 18]



[写真 19]



[写真 20]

—引用—

「大統領、来年の、黒海岸のソチでの冬季オリンピック開催を、守ることを我々が保障しましょう。競技の安全を脅かすチェチェンの集団は、我々が支配しています。」

—引用終わり—

サウジがしている事が、分かりましたか？彼らは認めたのです。彼らは資金を餌に、テロリストを支配し、そして自分たちの利害に従って、中東および世界中で、彼らを利用し、やりたい放題をしているのです。ロシアの大統領が、王子の言葉に秘められた一種の「脅し」を耳にした時、サウジの王子を家から叩き出さずにはいられませんでした。

「出て行け！」「私はイランを支援する！」

「そしてもし、シリアに何かが起きたら、言うておくが、どんな事でもイランがあなたがたに対して、望むとおりに実行することを許可する。」

恐らく、皆さんは思っているでしょう。

「ちょっと待って！私はてっきり、これはシリアとオバマとヨーロッパの話だと思ってた！」

——いいえ。皆さん、中東はもはや、イスラム教徒間の対立へと突入しました。はるか、A. D. 632 年、モハメッドがここで死に、問題は、誰が後を継ぐのか、ということ。彼の甥か、それとも、彼の弟子であり、信者でもあった妻の父親か。そして、妻の父親アブー・バクルが支配し、2代目カリフ、3代目カリフと続いて、モハメッドの甥アリーが4代目カリフとなったが、彼の息子が殺され、後を継ぐ者がいなくなったため、全てがモハメッドの子孫ではなく、信者へと移行しました。その7世紀以来、中東のすべての争いは、「スンニ派 VS シア派」によるものです。



[写真 21]

スンニ派はモハメッドの弟子の「信者」こそが、一方、 Shia 派はアリーの身内、つまりモハメッドの「血縁」による者こそが、イスラム教の継承者になるべきだと、それぞれ考えています。これが全てです。誰が引き継ぐのか。イスラム教を継承する正統な権利は誰にあるのか？それ以来、後継者問題で彼らは幾代にも渡って、互いに殺し合っているのです。イランは Shia 派の母であり、サウジアラビアはスンニ派の母、これが中東で起こっている本当の事です。

見えて来ましたか？皆さん、話に追い付いて来ていますか？舞台裏でアメリカは、誰のために汚い戦いをしているのですか？サウジです。ロシアは、イランの支援を受けているアサドのために戦っています。イランとサウジが綱を引き、ロシアとアメリカが表に立っているという図式をあなたがたは見ており、真にイスラム社会で起きていることは見えていないのです。分かりますか？ここで私が理解出来ないのは、何故 1,400 人の死が、この2年半の間に亡くなった 12 万人よりも大事なのか、ということです。しかし、一つだけ言えるのは、あなたがたは大変な事態の中にいる、ということです。アメリカは、中東の味方国から全ての信頼と尊敬を失いかけています。小さな問題が起きた時、あなたがたは声を大にして、はっきりと主張しなかったからです。それでは、イランの核兵器のような、もっと大きな問題に直面した時、どうするのですか？それをイスラエルが問うており、レバノンが、トルコが問うているのです。エジプトやヨルダンでさえも問うています。

私たちは今、歴史的な時代にいる、と言えるでしょう。アメリカが中東を支配する時代は、もう終わりに来ていると言えるでしょう。お分かりですか？それなら、どうしてそんなに悲しむのですか？聖書の中に、アメリカが

中東を支配するとは一切書かれていません。私たちは、歴史的に驚くべき事、聖書の正確さを目撃しているのです。見てください。我々は今、イランを見ていて、どうしてあなたがたがこの驚くべきスターを「穏健派」と言うのか、分かりません。

この男（ハッサン・ロウハニー）は、皆さんを騙しています。何故でしょう？ 彼が穏健派と言われる理由は、アフマディネジャド前大統領と違って、自分の考えを言わないからです。アフマディネジャドは典型的な人間で、政治家ではなく、心に思うことを全て口にしました。ユダヤ人が嫌いだから、ユダヤ人を嫌い、イスラエルを破滅させたいから、イスラエルを破滅させる、とてもシンプルで、その事で次から次へと問題を起こしたのです。



[写真 22]

次に来た新大統領は、「あなたがたはどうかしている。」「正気ですか？」

「私たちの考えを、世界中に伝える必要はない。」「我々は、世界が望む事を言えば良いんだ。」

「そして、我々が何をするかは、私に任せなさい。」

つい先日（書記注:2013年8月3日～）、彼は選出され、2、3日前に国際原子力機関は、イランが核活動をしている、と報告しました。8月28日、ここ一週間以内の話です。



[写真 23]

「イランが核開発活動をしており、中止していない。」

と。それでもあなたがたは時間を与え、彼が穏健派だと思っている。

彼は、立て続けに攻撃されるガザと同じくらいに穏やかです(笑)。

大量殺人犯、フォード・フッドの仕事場のような(笑)。

そういった類の「穏健派」でしょうか？ 言うておきます。

エジプトは、事の成り行きを凝視しています。エジプトでは改革が起きており、2013年7月は「第二革命」と呼んでいます。



[写真 24]

第一回目は、民主化が実現できると思い、国民はムバラクを排除したが、彼らはムバラク排除後の事までは計算出来ていませんでした。エジプトでは、選挙を勝ち取る準備が出来ていたのはムスリム同胞団です。ムスリム同胞団、これはイスラム原理主義の復活なのです。1920年代前半に、トルコがイスラム国家設立を廃止して以来です。このムスリム同胞団は、ムハンマド・ムルシーを選び、一年で、エジプトに残っていた、全ての良いものを廃棄しました。憲法は無効化され、軍からは良識ある、穏健派の人々が退けられ、彼の気に入った人があてがわれました。軍人を含む多くの人たちは、自分たちが

第二のイランになる、ということに気づきました。2013年7月、彼らは街頭に出て行き、軍を支援し、ムルシーを倒し、暫定政府を設立しました。今、あなたがたは、ムスリム同胞団が穏やかな人だと思っています(笑)。あなたがたの大統領は支持しているじゃないですか！？アメリカ人もそうならば良いと思っています。知らないでしょうが、彼らは石や花などを使ったデモ行進はしません。



[写真 25]

彼らのデモとは、武装して襲撃し、死んだエジプト人の警官や軍人を切り刻み、生き証人がいなくなるまで行うもので、結果として、誰も知ることはありません。だから彼らに対して厳しいのです。彼らはとてつもなく危険だからです。これは、宗教的なものなのです。

彼らがデモを行う時は、片手にコーランを持ち、もう片方の手でアッラーに服従する。これは政治的な戦いではなく、宗教的な戦い（聖戦）であると、はっきり宣言しています。そして、彼らが望むものを手に入れられない時、誰を追いかけると思いますか？



[写真 26]



[写真 27]

40 の教会が焼き払われました。40 軒のコプト教会がエジプトのムスリム同胞団によって焼かれたのです。これは政治的ではなく、宗教的です。

スーダンについて聞いたことのある人？スーダンはエジプトの真南に位置します。イランはスーダンに武器を密輸出し、そこからイスラエルを破壊するために利用していました。

イスラエルはこれにケリをつける事を決め、2012 年 10 月 23 日、我々は 1,200 マイル (1,920 km) の距離へ F-15 戦闘機を飛ばし、いくつかの爆弾を投下しました。これがその時の写真です。



[写真 28]



[写真 29]

どこかが報道したでしょうか？いいえ。しかし、この町はもうありません。終わりました。その事に対して、彼らはとても憤っています。面白い事に、ここだけではなく、他にもたくさんあって、トルコなどでも、政府はイスラム原理主義で、民衆も自国内に起因する不満足や不快感を街に出では騒ぎ立て、およそ中東にある暴動の全てをイスラエルのせいだとして責めます。

一体全体、彼らにとってイスラエルとは、どれだけ偉大で必要不可欠な国なのでしょう？私には彼らがそう信じているように見えてなりません。であればこの際、あなた方もモンスーンや台風ハリケーンのような厄介者を、全て我々イスラエルの責任にしてみませんか。ですが、みなさんに一つだけ言うておきます。



[写真 30]

全ては、神のご計画通りに進んでいます。

よく考えてください。アメリカ。これだけの力を持っているアメリカ。イスラエルの最強の味方が、聖書のエゼキエル書には、「アメリカがイスラエルを助けに来る」とは一切書かれていません。ここ2、3年の内に起きたのは、「Colossal Failure」（膨大な失敗）。外交政策において、リビア支配に間違っただけの人選をし、そしてガザ問題。



[写真 31]

エジプトに間違っただけの人選をしたために、大変な被害をもたらしました。あなたがたがシリアで、アルカイダを支援しようとした時、イスラエルはパレスチナ問題が全てであるかのように語られ、まるでそれだけが中東問題であるかのように、2 か月間に 15 回も秘書官を送り込みました。あの地域で何十万という人々が死んでいるというのに。固定概念を植え付けるものです。あの地域が平和になる、と本当に思いますか？パレスチナには、2つの政府があります。2人の首相、2つの外務省、我々は誰と話しますか!?我々は誰と契約を交わせば良いのですか？こちらと話をすれば、あちらが違うと言い、あ

ちらと話をすれば、こちらが違うと言う。「何を言ってるのか、分からない」と言う。あなたがたは、間違っただけに力を注ぎ込み、本当に解決すべき事を無視しています。あなたがたの経済はどうですか？今はそれについて話しませんが、…皆さんがとても深刻な顔つきになってきたから。今は元気になりたいと思います。よく考えてください。アメリカが弱くなってきた。これは、大昔に聖書が預言したことです。考えてください、皆さん。

いずれ、全ての事がイスラエルで起きるでしょう。それは、皆が苦しんでいるから。私たちの国で今起きている事、それは——我々はガスを発見し、石油を発見しました。経済も飛躍しています。



[写真 32]

事実、Energy Tribune 誌には「イスラエルは、エネルギー大国を目指している。」そこには、「イスラエルが国内外において全ての資源を牛耳ることになる。」我々は、エネルギー大国になりつつあります。彼らが殺し合っている間に、我々は繁栄しています。恨みを持つのは、簡単です。これを見てください。

聖書には、ヘブル人への手紙 1 章にこうあります。

- 1 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、
- 2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

(ヘブル書 1:1~2)

太古の時代、預言者でいるのは大変なことでした。いつも、人々が聞きたくない事を話すので皆から責められました。最近では、「預言者」（プロフェット）を名のる人が多くいますが、私は「ノン・プロフィット団体」（NPO:非営利団体）です。（会場笑）

一つ言えることは、聖書には、第二ペテロ 1 章 20~21 章

20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。

21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。

(第二ペテロ 1:20~21)

聖書、ヘブル人への手紙では、イエスご自身が肉体を持った神としてでも、王としてでもなく、預言者として語ったと書いています。同じ形で、御父は預言者を通して語られたのです。彼は、今現在もイエスを通して語られています。私たちは知っています。イエスご自身が神の御言葉であり、肉体を持った神。エホバの証人が伝えているのとは、違うのです！イエスは、肉を持った神であり、一つ言えることは、——イスラエルに行ったことはありますか？ 行きたいですか？ 一度、オリーブ山に立ち、エルサレム市街を見渡してみてください。そこは、イエスが使徒たちとよく訪れた場所です。そこで使徒たちは、現在の私たちが抱く疑問と全く同じことを質問したのです。

「先生、世の終わりにはどんな前兆があるのでしょうか？」(マタイ 24:3 参照)

イエスは、その質問に対して、弟子たちを叱ったり、なさりませんでした。その質問に対して怒ったりせず、逆に彼は時間をかけて、終わりの時の前兆がどんなものかを説明しました。彼は多くの事について語り、こう言われました。

6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょう…

(マタイ 24:6a)

どうですか？

第二次世界大戦が終わって以来、世界が平和であったのは、全部で三週間以下です。地震、疫病、飢餓…世界中で。彼は、これは「始まりだ」と言いました。しかし、面白い事にイエスは、世界で起こることを話してから、いったん止まり、

32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。

(マタイ 24:32a)

と言いました。そして、弟子たちは…？皆さんは、ユダヤ人の思考を理解しなければなりません。イスラエルは、いろいろな植物や木に象徴され、それぞれが何かを表しているのです。

ぶどうの木は、イスラエルの霊的特権。

オリーブの木は、宗教的特権。だから皆さんは、イスラエルの全貌を見てください。それについては、ローマ 11 章に書かれています。

そして、いちじくの木は、国家としてのイスラエルを表しているのです。だから、ホセア書 9 章、エレミヤ書 24 章、ヨエル書 1 章では、「イスラエルは、神のいちじくの木」だと書かれています。

そして、イエスが「このいちじくの木から読み取るように」と言われました。葉が茂って来たとき、緑が萌え出て来たとき、夏が近いと知りなさい、と。大変面白い事です。



[写真 33]



[写真 34]

この頃、弟子たちには新約聖書がありませんでした。彼らが持っていたのは、旧約聖書だけです。彼らが読んでいたのは、預言者の書、詩篇、それとモーセの律法だけです。彼らは、諸会堂で毎週それを聞いていました。イエスは、新約聖書について教えたことは一度もありませんでした。パウロも、ペテロも、新約聖書からは一度も話したことがありません。彼らが著者だからです。わたしが言いたいのは、彼らは旧約聖書をよく理解していて、イエスが「いちじくの木がまたよみがえる」と言った時、彼らは、イエスがイスラエルの復活について話しているのだと、はっきり認識しました。彼らは、その後イスラエルに何が起こるか、知りませんでした。実際、イスラエルは世界中に散らされ、土地は死に、彼らはその後、何が起こると悟りました。土地の復興、国民の復興、そして国民の帰還。とても、興味深い事です。

100 年ほど前、イスラエルを訪れていたなら、不毛、不作の地、1800 年にそこを訪れたマーク・トウェイン（書記注:「トム・ソーヤの冒険」、「ハックルベリー・フィンの冒険」などの著者。アメリカの小説家 1835~1910）が記しています。

「そこは不毛の地で、何もない。」

彼自身は知りませんでしたが、これは、“後に異邦人が来て、国民が散らされた後の、死んだ土地について、証言する”というモーセの預言が成就したことを表しています。面白いですね。



[写真 35]

さらに、エゼキエル 36 章 8 節には、

8 **だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。**

(エゼキエル 36:8)

主は、あの、死んだ土地を生き返らせる。

100 年前、そこにいた所有者たちは去り、土地は今、たくさんの野菜や果物を生産しています。



[写真 36]

イスラエルは今、あの小さな土地で、どの国よりも多くの種類の野菜や果物を生産しているのです。国の大きさは、ニュージャージー州とほぼ同じ（書記注:約 20,000 km²、日本の都道府県面積でいうと四国全体よりも少し大きいくらい）。驚くことに、我々は砂漠で花を育てています。アラブ諸国が「デザート」（なつめやし）を買いにやってきました。ユダヤの日。面白いですね。

エゼキエル 36 章では、土地の復興について書かれていますが、エゼキエル 37 章では、ひどく干からびた骨について書かれています。第二次世界大戦後、ヨーロッパへ避難して来た人々を助けたという、幾人かのアメリカ兵と話したことがありますが、彼らが、この収容所で見ただけの事について、聞けば聞くほど、写真を見れば見るほど、このエゼキエルに書かれた“干からびた骨”が脳裏に浮かぶのです。この人たちを見てください。全く肉がありません。彼らは、骨と皮だけで、面白い事にエゼキエル自身が問うています。

「私が見ているものは、何ですか？」



[写真 37]

12 …神である主はこう仰せられる。わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、（エゼキエル 37 :12 中盤）

その前に、エゼキエルは、

11 …彼らは、『私たち の骨は干からび、望みは消え失せ、私たちは断ち切られる』と言っている。（エゼキエル 37 :11）

と述べています。この人たちの目を見てください。望みがありません。彼らの姿を見てください。肉は殆ど残っていません。彼らは、自分たちが断ち切られた、と本当に信じていました。しかし神には、他のご計画があり、

12 …見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。

（エゼキエル 37:12 b）

パレスチナ人でもなく、2 世紀に名を轟かせた狂ったローマ皇帝シーザー でもなく。そして続きます。

13 わたしの民よ。私あなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。

14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。

（エゼキエル 37:13 14a）

「これは、間違いなくあなたがたの土地だ」と。「あなたがたの土地」。

更にすごいのは、

14 …このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。——主の御告げ」

（エゼキエル 37:14b）

神は、一つのことを告げ、そして、それを成し遂げます。神は、言われます。

「わたしはただ、約束するだけでなく、それを成就する。」

わたしの祖父母は、アウシュビッツ強制収容所で生き残りしました。そして、このような船でイスラエルに帰りました。見てください。一つの船に、何千人ものイスラエル人がひしめき合い、イスラエルに向かったのです。ところが、イギリスがこれの向きを変え、わたしの母が生まれたキプロスの収容所へと送ったのです。面白い事に、彼らはその新しい地でやり直すことを、とても喜びました。主が、これを成し遂げたのです。皆さんが今、見ているのも、神の奇跡と言う以外、説明のしようがありません。何十万というユダヤ人を大虐殺から救い出し、彼らの土地に帰らせたのです。

しかし、1940 年代で終わりではありませんでした。1980 年代、我々はエチオピアのユダヤ人たちを救い出しました。右側の写真（写真 39 の 右側）をご覧ください。我々は、土地の一部の使用許可をスーダン政府から得て、36 時間以内に何十万というエチオピアのユダヤ人たちを乗せる飛行機を飛ばし、747 型 機（書記注: 当時最大の 旅客機。通称 ジャンボ ・ ジェット 。 標準型は 440 席ほど。※文末に補足あり に 1,000 人の 人を乗せました。到着した時、人数は 1,001 人になっていました！途中で赤ちゃんが生まれたからです！ もしこれが、神のご計画でなかったら、ユダヤ人を救い、彼らの土地に戻すため、土地の使用を許可する政府があったでしょ

うか？ 神は「わたしはただ、約束するだけでなく、それを成就する。」と仰せられるのです。他に説明がつきません。



[写真 38]

この中には、ご自身の目で目撃された方もおられるでしょう。私の祖父母がポーランドのワルシャワで育った頃、彼らは、イスラエルへは行きたくなかったのです。ヨーロッパでの、ユダヤ人の生活は素晴らしかったからです。ヒトラーが登場してから、全てが変わったのです。彼らは、パレスチナ人や蚊に囲まれた生活を、想像すらしていませんでした。神が、土地を復興させることを、彼らは知らなかったからです。しかし、悲劇が起こり、神は 残りの者を助け出し、そして彼らを、彼らの土地に戻したのです。驚きです。

これで私たちは、エゼキエル36、37章の約束が成就されたことを見ました。そして今、私たちはエゼキエル38、39章が成就されようとしているところに来ています。アメリカは、中東での支配力を失いつつあり、ロシアは、軍を率いて来ようとしており、彼らはガス、石油を狙っています。エゼキエルに書かれているのは、

「彼らはやって来て、我々の持つものを奪おうとする。」

彼らが奪おうとしているものが、あるのです。彼らは、彼らが狙う価値のあるものを奪おうとします。そして、エゼキエルに書かれている同盟国は、

- ① イラン
- ② トルコ
- ③ スーダン

先ほど説明した通り、これらの国が、イスラエルに何らかの契約を仕掛けます。言っておきますが、私はとてもワクワクしています。何故？ それは、最後の書を知っているからです。そうですね？（会場拍手）

良いですか？

我々の住むこの時代、舞台はもう整いました。面白い事に、イエスはルカ 21 章で、弟子たちにこう語っています。

28 これらのことが 起こり 始めた なら、からだをまっすぐにし、頭を上になげなさい。贖いが何ですか？

近づいたのです。

(ルカ 21:28)



[写真 39]

ところで、私は、我々信じる者はもう贖われたと思っていましたが、これはからだの贖いです。ローマ書 8 章 23 節には、からだの贖いについて書かれています。あなたがたは既に贖われている。しかし、からだは贖われるのです。また、ルカ 21 章 31 節には、こうあります。

31 …これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。

(ルカ 21:31)

私たちは、イエスと共に戻って来ます。私たちは、イエスと共にオリーブ山に戻って来ます。私たちは、イエスと共に 1000 年の間、千年王国を支配するのです。私にとっては、これが希望であり、これが未来、これが生きる目的です。私にとっては、これが全て信じる者の待ち望むべきものであり、今、目の前で起きている事に目を留めず、悲惨な事、目を背けたいこと、経済、政治、ホワイトハウス、議会、国連…。聖書に目を向けてください。そして、見なさい。私たちの贖いは近づいています。

ローマ書 13 章 11 12 節にはこうあります。

11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。

12 夜はふけて、昼が近づきました。

(ローマ 13:11 12a)

「我々の救いは、信じた日よりも近づいた？ちょっと待ってください。もう救われていると思っていました。」この、悪い世からの、肉体の救いが、最初に信じた日よりも近づいているのです。この中に、未信者の方がどれだけいるのかわかりませんが、良いですか？恐らく、あなたのために携拳が起きないのかも知れません。

(会場笑)

聖書には、第二ペテロ 3 章にこう書かれています。

8 …愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。

9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせているわけではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

(第二ペテロ 3:8~9)

きっとあなたのせいですよ！どこにいるのかわかりませんが、私たちはまだ行けないでいます！今、決心してください！！(会場爆笑、拍手) 今日このメッセージが、あなたがたの目を開き、恐れではなく、希望を抱けるように、失望ではなく、興奮するようにと望みます。もし、あなたがたが今夜信じなかったとしても、私は責めません。我々の希望はこの世にはありません。私たちの希望は、われらの救い主、贖い主、平和の君が、彼の元に行くために迎えに来られることです。もうすぐ、本当にすぐに、私たちは王にお会いします。アーメン？ ?

(会場拍手、歓声)

では、祈りましょう。

お父様、王の王、主の主、今夜私たちは、希望と期待を胸に御前に来ました。お父様、あなたは、私たちを孤児のように、この世に放っておかれませんか。あなたは聖霊を送り、全てにおいて導き、慰めてくださいました。お父様、私たちはあなたの御言葉を通して、パウロが携拳について書いた時のように、携拳を思って、期待に満ちています。私たちのこの世代は、さらなる出来事、さらなる約束の成就を、イエスの時代以来、他のどの世代よりも多く見えています。そして主よ、たくさん受け取った者は、たくさん要求されます。お父様、私たちはあなたの御前に進み出ます。あなたは、誰一人として失うことを望んでおらず、皆が悔い改めることを望んでおられます。お父様、もし、これを聞く者の中で、家で、またはこの会場で、まだ決心できない人がいましたら、どうか今夜、われらの希望がこの世にはないことを知り、決断出来ますように。お父様。私たちが、あなたの御手の中で守られている事に感謝します。天の宝に感謝します。我々が天に属している事に感謝します。そして、あなたの御言葉を通して、あなたの御心、ご計画を知り、頭を上げて、もうすぐ来ようとしている、私たちのこの世からの救いに感謝します。ありがとうございます。あなたの御名を祝福します。この希望が、この先の週、月、何年あるのかわかりませんが、私たちを導き、守ってくださいますように。感謝します。これら全ての事を、聖なるイスラエルの地、王の王、主の主、ユダの獅子、神の子羊、平和の君、インマヌエル、イエシュアの御名によってお祈りします。私たち、神の民は言います。

アーメン。

2013年9月26日 初回公開

※書記による 補足



(写真 39) に関して Wikipedia からの引用

Amir 氏の講演では「1980年代に」と発言されているが、この一連の「エチオピアからのユダヤ人の短時間 大規模脱出」は、Wikipedia の記載によると 1991年5月24日に実行された「ソロモン作戦」のことを指すと思われる。また、使用された旅客機「ボーイング 747」型機についても所有者の「エル・アル航空」の解説ページに興味深い記事が載っているので以下に抜粋して記しておく。ちなみに「747 (通称 ジャンボジェット)」についても解説ページが存在するが煩雑になるためここでは引用しないこととする。ただ、1991年という時期を考慮すると、使用された機体はその後にハイテク化され 500 席以上 搭乗可能となった機体 (747 400) ではなく、初期型 (747 クラシック) という座席数 450 席程度のものであったと考えられる。

===== (以下引用記事) =====

ソロモン作戦 (ソロモンさくせん、英語: Operation Solomon、ヘブライ語: מִצְטָא שְׁלֹמֹה, Mivtza Shlomo) は、1991年5月にイスラエル空軍などの協力によって行われた、ベタ・イスラエル (エチオピアのユダヤ教徒たち) をイスラエルへ短時間で大量輸送して脱出させる作戦。当時のイスラエル首相は、イツハク・シャミルだった。

その頃、エチオピアは政局が混乱 (メンギスツ・ハイレ・マリアムが失脚) していた。その影響を受けないうちに、かねてから計画していた黒人ユダヤ教徒の移民を、早急に実現に踏み切ることとなった。

- ・ 期間 5月24日 (金) 10時 5月25日 (土) 11時までの、25時間。
- ・ 距離  ボレ国際空港 (アディスアベバ) -  ベン・グリオン国際空港 (ロード) までの飛行距離は、片道 2400km (約 4 時間)。
- ・ 機数 軍用機と民間機 (エル・アル航空) の計 35 機を、のべ 41 回飛ばした。
- ・ 一回の最大輸送人員 ボーイング 747 の 1087 人 (ギネスブックに記録された)
- ・ 合計輸送人員 約 1 万 4000 人

参照元: Wikipedia 「ソロモン作戦」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BD%E3%83%AD%E3%83%A2%E3%83%B3%E4%BD%9C%E6%88%A6>

エル・アル航空 (英語 El Al、ヘブライ語 **אל על**、アラビア語 **إل عال**) はイスラエルの 国営航空会社。エル・アル・イスラエル航空と呼ばれることもある。

※ 書記注) この記事の「4. エピソード」項には次の記載がある。

なお、記事中の「ギャラリー」は機内食用の厨房設備。「ラバトリー」はトイレの意。

- ・ 1 フライト輸送最大人数記録

1991年5月に実行された「ソロモン作戦」において、エチオピアからユダヤ人を脱出させる際に使用された航空機のうち、ボーイング 747 の 1 機が、全てのギャラリーと 4 箇所のラバトリーを除いて全て撤去した上で 760 席の

座席を設けた特別仕様により使用された。さらに、座席の肘掛を全て跳ね上げることにより、より着席人数を多く確保できるようにしていた。この作戦で実際に搭乗したのは1087人（このうち3人は機内で誕生した新生児）で、これは1フライトで輸送した人数としては最大の人数である。

参照元：Wikipedia 「エル・アル航空」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%83%AB%E8%88%AA%E7%A9%BA>

以上（完）



▶ スマートフォンなどのカメラで読み込むと、このメッセージを YouTube で見られます。
◀ リンク先： <https://youtu.be/oivG3dH0TkE> ▶



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel

<https://beholdisrael.org>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル ▶

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

